

二〇〇〇年度総合文化研究所活動報告

編集後記

公開講演会

主催 総合文化研究所

「パゾリーニ、モデルニテと伝統」十月十二日

ジャン・マリオ・アンセルミ（ボローニャ大学教授）

公開シンポジウム

主催 総合文化研究所

協賛 財団法人国際言語文化振興財団

「迷路と無限―海にとけるトポス―」十一月十八日

鈴木了二（建築家）・小林康夫（東京大学大学院教授）

松浦寿夫・和田忠彦

総合文化研究所ゼミナール

第一回 六月二八日 水野善文「インド文学と私」

〈本を書くⅠ〉荒このみ「アフリカン・アメリカン文学」

第二回 一二月六日 菊地陽子「静かな革命と革命の子ども」

〈本を書くⅡ〉 和田忠彦「外国文学者であること」

各種研究会

朝鮮文学研究会 毎月第二土曜日

スペイン語文学研究会 毎月第二土曜日

【総合文化研究】第四号は、ヨーロッパ、特に地中海文化圏の文化、文学の特集であり、編集にあたったのは牛島、和田、西永、そしてこのなかで西永が原稿催促のノウハウと強引さをもっとも備えているということで編集責任者をつとめた。

巻頭の亀山所長の言にあるように、当初の予定では牛島氏の「新訳ドン・キホーテ」の偉業へのオマージュの意味で「セルバンテスの遺産」とでも題する特集を考えていた。そして、そのことは特集の前半で内容的にも充分に表現できたと考えている。ただ、その後ならずしも上記の総題では括れない興味深い論考がいくつも寄せられ、編集委員会で論議した結果、これまでの号の前列に従って、結局「ヨーロッパの文化と文学」と題する特集とすることに落ち着いた。

やはり巻頭の亀山所長の言にあるように、現代の世界文学をリードするミラシ・クンデラ、ファン・ゴイティソロー、ウンベルト・エーコの三氏の寄稿を得たことは、控えめに言っても画期的なことであり、この号の編集責任者としては声を大にして快哉を叫びたい。

水林、西谷両氏の論考はきわめて刺激的なものであり、杳掛、奴田原、三枝氏らのテクストもそれぞれ個性的で、じつに含蓄豊かなものである。さらにこの号では書評欄が大変充実したものになり、これは東京外国語大学総合文化研究所の「バラエティ、ユニークさ、そして何よりもクオリティ」を如実に示すものである。しかも本号の素晴らしい表紙画、カットはいずれもわれわれの同僚、松浦寿夫氏の手になるものであり、いかにもトランスカルチュラルな本研究所の面目躍如たる感がある。

なお、この号の編集にさいして、国際言語文化振興財団の暖かい支援を受けたことに心から感謝したい。また、編集の具体的な作業の段階で吉本秀之氏を中心とした岸井紀子、蕭幸君、福岡由仁郎の四氏から成るスタッフの献身的な尽力があった。深くお礼申し上げる。

（西永良成）

2001年3月25日発行

Trans-Cultural Studies No.4
総合文化研究 第4号

編集委員 西永良成 (責任編集)
牛島信明 和田忠彦
編集スタッフ 吉本秀之 岸井紀子
蕭幸君 福岡由仁郎

発行 東京外国語大学総合文化研究所
東京都府中市朝日町3-11-1
〒183-8534
電話 042-330-5409
ファックス 042-330-5410

印刷 (株)壽工業写真社
東京都北区滝野川 1-90-8